

表2-5-1-3 環境分野の主な調査・研究の概要

【保健環境センター】

研究機関名: 保健環境センター (https://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/tyosakenkyu.html)	
1	<p>調査研究名 宮城県におけるPM2.5高濃度予測時の成分分析 (令和5年度～令和6年度)</p> <p>目的 微小粒子状物質(PM2.5)は呼吸器・循環器への影響が懸念されているが、その対策を検討する上で詳細な成分分析が必要となる。そのためには高濃度等のイベント発生時も含めた成分分析が有効であるが、定期的な試料採取だけでは高濃度日を捉えることが困難である。そこで機械学習によりあらかじめ高濃度日を予測し、試料採取・成分分析をすることにより、発生要因の推定に繋げる。</p> <p>概要及び成果 定期調査のほかに、機械学習及び大気汚染予測システムVENUSを用いて高濃度日を予測し、試料の採取を行った。調査研究期間において高濃度日は少なかったが、比較的高濃度の日の成分分析の結果から「黄砂」、「バイオマス燃焼」、「二次生成」と推定され、寄与割合が高いと思われる発生要因の異なる特徴的なデータを得ることができた。</p>